

自分をえらんでうまれてきたよ (著) いんやく りお

第163号 2020年4月13日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

自分をえらんで生まれてきたよ

保育園に勤める妻が帰宅すると『自分をえらんで生まれてきたよ』の本を職場の先生から借りたようで、持って帰ってきました。

初めて目にした本でしたが、この本のタイトルに興味を抱き読み始めました。

■著者紹介

印鑰 理生 (いんやく りお) 2001年8月18日東京生まれ。不整脈のため、34週で緊急帝王切開により誕生。3歳でペースメーカー埋めこみ、10歳でカテーテルアブレーション術をおこなう。慢性肺疾患、喘息により、9歳まで在宅酸素療法。2011年3月沖縄に移住

■フェイスブック

<https://www.facebook.com/InyakuRio/>

■本のご紹介

『自分がえらんで生まれてきたよ』は、いんやく りお君が話した4歳~9歳頃の言葉や、生まれる前の記憶の話が掲載されています。生まれる前の記憶から、自分自身がお父さん、お母さんの元を選び、病気になることも自分が選んできたんだよ！という言葉に、生まれる前から自分は選んで今に至っているのだと感じる1冊でした。

~~~~~

ぼくが病気で生まれたのは、ずっとずっと、幸せになるためだよ。ぼくが赤ちゃんの時、いっぱい泣いたのは、赤ちゃんは言葉をしゃべれないから、神様に「もっと大きくなりたい。お兄ちゃんになりたい」という、お祈りだったの。それで神様が、お願いを聞いてくれたから、僕はこんなに大きくなったんだよ。だから、ぼくが泣いてもママは「かわいそう」とって、思わなくてよかったんだよ。

~~~~~

